

11月20日の窓口交渉および11月25日の団体交渉について報告します。

○ 会社の暴挙を許すな ○

夏季賞与を1700万円減額しておいて社員には何ら説明をしない。講師の昇給幅を50%に圧縮する。冬季賞与を1900万円減額する。このように職員・講師の取り分を減らしておいて、一方では小松原取締役を副社長に昇進させ、役員報酬を増額させています。このような暴挙を絶対に許してはなりません。

この件についての会社の説明は、以下の通りです。

- ① 昨年8月末の決算は悪くなかった。昨年10月の株主総会で副社長に昇格させたことは何ら問題ない。
- ② 副社長として相応の報酬を増額することは当然であり何ら問題ない。
- ③ 昨年後期からの室生数減に対して4月から10月まで役員報酬を一律5%カットした。
- ④ 赤字決算を受けて、この11月からは役員報酬を総額でさらに20%（昨年比24%）カットした。

①について、会社は室生数減や経営環境の悪化を理由として昨年の冬季賞与を減額しています。決算がよかったのなら職員に賞与で報いるべきです。10月の取締役会の際にはよかったが、その直後に職員の冬季賞与を決める段階で急に経営環境が悪くなったとでもいうのでしょうか？

②について、今期決算で増加した役員報酬1300万円の中には、今枝取締役（10ヶ月分）と西井取締役（6ヶ月分）が含まれます。（注：今枝・西井両取締役の報酬には、役員部分と従業員部分があるため、今期決算に含まれている役員報酬はその収入の一部ですが、内訳は明らかにされていません。）かなりの部分が小松原副社長の増額分であると推測されます。副社長へ昇格しても報酬は増額しないという方法もあったはずですが。

③について、減額の総額は250万円です。この金額は妥当なのでしょうか？

④について、このままのカット率が継続すると次期決算での役員報酬は年間で1900万円減少します。職員の賞与は冬季だけで1900万円減っています。きっと、来年の夏季賞与も減るでしょう。これでいいのでしょうか？

小松原副社長は日能研に入社する以前からKNSの役員でもあります。会社はKNSの財務状況を明らかにしませんが、KNSからも報酬を得ているはずですが。その一方で賞与の減額で住宅ローンの返済に困っている社員、長年日能研に勤務してもほとんど昇給しない時給でやりくりしている講師がいるのです。会社は運転資金に困り今年になってから銀行から2億円ほど借入れをしています。それでも役員報酬は増えるのです。こんな暴挙を許してはなりません。社員や講師へのしわ寄せは最後の手段であるべきです。お金がないのならKNSを合併して、夙川の役員住宅とほとんど使っていない研修所を売却してはどうでしょうか？

闘う以外には、私たちの生活は守ることはできません。組合に加入し、共に闘いましょう！

○ 講師部のデタラメにはあきれます ○

台風の場合、休講前に開始されたコマについては全額A時給で支払うことになっていて、これは会社側も認めるところです。前回団交で間違いを今枝取締役に指摘したところ撤回するとの返事でしたが、その後何の連絡もありません。今回、この件を問いただすと、上月部長は、兵庫県では6時18分に警報が発令されたので、45分まではA時給で支払うと言い出す始末。講師部内での連絡やTCSとの引継ぎが全然できていま

せん。結局この件は組合の主張通りに支払われることになり、近々、講師先生方へ連絡があると思います。